

文化庁説明資料

日本映画製作支援事業・アニメーション映画製作支援事業

平成29年度予定額 403百万円
(平成28年度予算額 465百万円)

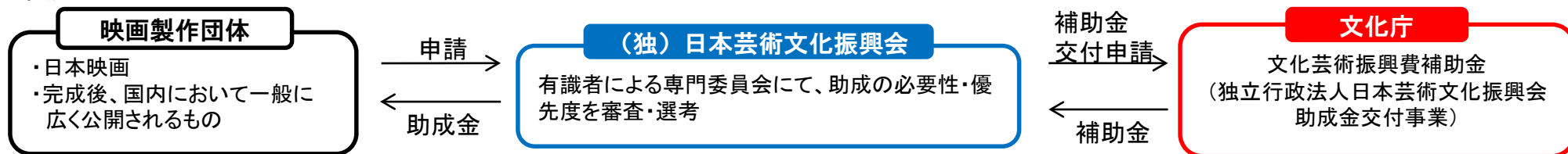
【趣旨】

日本映画の水準向上を図り、優れた日本映画の製作活動を支援し、日本映画の振興に資する。

【助成区分】

劇映画、記録映画、アニメーション映画

【実施スキーム】



【助成状況】

平成25年度～平成28年度 文化芸術振興費補助金(芸術文化振興基金への補助事業) 応募・採択状況

区分	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			合計(4力年)		
	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率	応募	採択	採択率
劇映画	64	26	40.6%	61	21	34.4%	69	21	30.4%	57	21	36.8%	251	89	35.5%
記録映画	48	19	39.6%	34	14	41.2%	50	13	26.0%	41	12	29.3%	173	58	33.5%
アニメーション映画	18	11	61.1%	15	12	80.0%	15	8	53.3%	15	9	60.0%	63	40	63.5%
合計	130	56	43.1%	110	47	42.7%	134	42	31.3%	113	42	37.2%	487	187	38.4%

【平成28年度主な助成実績】

「淵に立つ」
製作会社:名古屋テレビ放送(株)

「聖の青春」
製作会社:(株)KADOKAWA

「家族はつらいよ2」
製作会社:松竹(株)

「君の名は。」
製作会社:(株)コミックス・ウェブ・フィルム

「この世界の片隅に」
製作会社:(株)ジェンコ

平成29年度予定額 157百万円
 (平成28年度予算額 161百万円)

映画製作を通じた若手映画作家の育成(OJT支援)

事業概要

本格的な映画製作のワークショップ等で学んだ技術や知識を、実際の短編映画作品の製作を通して実践する場を与え、若手映画作家が世に出る機会を提供する。

- (1) 映画作家の公募 ……芸術家・芸術団体及び各種映画祭等に事業に関する告知を行い、優れた若手映画作家を公募する。
- (2) 製作ワークショップ ……5分の作品を製作させ、評価・論評をする中で本格的な映像製作技術と作家性を磨くために必要な知識や技術を習得するとともに、実地研修参加者を選考。
- (3) 映画製作活動の実地研修 ……各分野のプロのスタッフを編成して現場をつくり、若手映画作家による映画製作(25分以上30分以内)の実地研修を行う。
- (4) 上映会・講習会の開催 ……完成した映像作品は映画製作関係者をはじめ広く一般の観客に公開し、講習や意見交換会を実施。

【○平成28年度合評上映会:東京、大阪、京都、名古屋、新潟 ○一般公開:東京、大阪】

実績

事業開始から現在(平成18年度～平成28年度)まで製作実地研修参加者:合計57人

(研修後、既に商業映画を撮った監督人数:18人 / 商業映画作品数:27作品)

・平成20年度 中野量太監督

⇒ 本事業参加後、長編映画『チチを撮りに』が平成25年2月16日に劇場公開。同作で第63回ベルリン国際映画祭ジェネレーション部門に正式招待されたほか、他の国内外の映画祭にも正式招待などを受ける。

⇒ 平成28年自ら脚本も手がけた『湯を沸かすほどの熱い愛』(主演:宮沢りえ)が全国規模で公開。第40回日本アカデミー賞優秀作品・監督賞他(最優秀賞は3月発表予定)

・平成24年度 小林達夫監督

⇒ 本事業製作実地研修作品『カサブランカの探偵』を製作した松竹撮影所のもと、平成27年9月26日に、人気漫画家・杉浦日向子原作とした商業長編時代劇映画『合葬』(主演:柳楽優弥)で商業映画監督デビュー。同作は第39回モントリオール世界映画祭のワールド・コンペティション部門にも正式出品。また、小林監督個人としても京都市芸術新人賞受賞。

映画関係団体等における人材の育成事業(インターンシップ支援)

事業概要

映画製作の各過程を担う専門性の高い人材を育成するため、実際の製作現場において可能な限り各職種の製作に関する全過程を経験し、プロフェッショナルな作品製作を自ら体感することにより将来必要となる知識・技術等を学び考えてもらうことを目的に学生の実習(インターンシップ)受入を支援する。

<職種:製作、演出、シナリオ、撮影、照明、録音、美術、スクリプター、編集、ポストプロダクション>

実施状況

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
学生参加数(受入社数、作品数)	136人(42社、54作品)	131人(41社、55作品)	108人(39社、48作品)

文化庁における日本映画の海外展開支援施策について

文化庁では映画を通じた文化交流、日本映画の国際展開を推進するため、映画の国際共同製作への支援やアジアでの日本映画特集上映を実施することで、日本映画の海外での上映展開機会の獲得、国際文化交流の質的向上を図るとともに、インバウンドによる観光振興など経済活性化につなげていくものである。

1. 国際共同製作映画への支援（文化芸術振興費補助金）

平成29年度予定額 310百万円
(平成28年度予算額 208百万円)

【概要・実績】

国際共同製作による映画(実写・アニメーション)の製作活動を支援。(採択実績：平成26年度5件、平成27年度5件、平成28年度4件)

【国際共同製作支援実績例】

平成23年度支援作品
「like someone in love」
相手国：フランス
配給：ユーロスペース

平成24年度支援作品
「101次求婚」
相手国：中国
配給：ポニーキャニオン

平成25年度支援作品
「アップルシード アルファ」
相手国：アメリカ
配給：ソニービクター、アニプレックス

平成26年度支援作品
「海難1890」
相手国：トルコ
配給：東映(株)

【制度等改善点】

- ①「複数年にわたる助成」について、柔軟に対応していけるよう改善を図る。
- ②国際共同制作経費3億円以上の案件について特別製作映画枠の新設(従来5千万円→1億円)。
- ③日本映画及び国際共同製作によって映画撮影に使用された地域が話題になることで、国内はもとより海外からの観光インバウンド集客を図るべく文化芸術による地方創生施策と連携。

2. アジアにおける日本映画特集上映事業

平成29年度予定額 81百万円
(平成28年度予算額 31百万円)

【概要・実績】

アジア地域において①日本映画の特集上映、②上映作品の監督やプロデューサー等と開催国の映画関係者との交流、③映画やアニメーション制作についてのワークショップやシンポジウムの開催等により、映画を通じた文化交流、日本映画の海外展開の推進を図る。(平成16年度より毎年開催。韓国(ソウル、プサン)、インド(デリー)、トルコ(イスタンブール)、ベトナム(ハノイ、ホーチミン)、インドネシア(ジャカルタ))

【開催実績例(平成28年度ミャンマー(ヤンゴン))】

- 入場者数：10,297人 客席占有率：80.2%
上映作品：29作品13プログラム(バクマン、ピリギヤル、バケモノの子、他)
構成：1、上映プログラム(アニメーションを含む)
2、交流プログラム(上映作品解説、舞台挨拶及び質疑応答、アニメーション制作方法等に関するシンポジウムを開催)
3、ワークショップ開催(短編アニメーション制作(「あいうえお作文」のように連想した絵を繋げてアニメーションにする))

平成27年度インドネシアの様子



我が国の優れた映画の海外映画祭への出品等を支援することにより、日本映画の発展と世界への我が国文化の発信に資することを目的とする。

(1) 日本映画の海外映画祭への出品支援



【実績】

- 平成25年度(67件)
 - ・「小さいうち」山田洋次監督☆
第64回ベルリン国際映画祭最優秀女優賞(銀熊賞)(黒木華)
 - ・「そして父になる」是枝裕和監督
第66回カンヌ国際映画祭審査員賞
 - 平成26年度(60件)
 - ・「ジョバンニの島」西久保瑞穂監督☆
アヌシー国際アニメーション映画祭
長編部門審査員特別賞
 - 平成27年度(79件)
 - ・「岸辺の旅」黒沢清監督☆
第68回カンヌ国際映画祭
ある視点部門監督賞
 - 平成28年度
 - ・「淵に立つ」深田晃司監督☆
第69回カンヌ国際映画祭
ある視点部門審査員賞
- ☆文化庁映画製作支援作品

(2) 映画祭見本市への出展

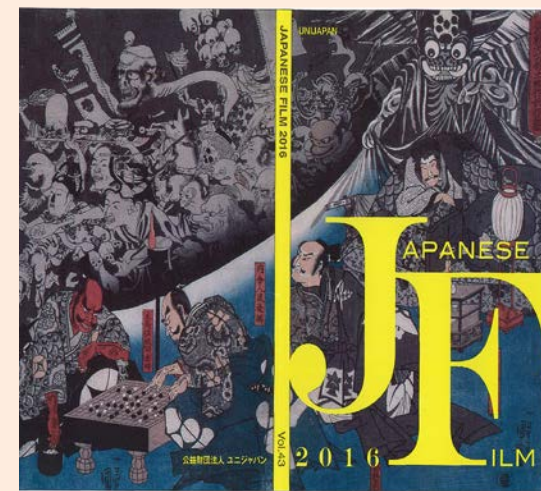


【実績】

カンヌ国際映画祭、アヌシー国際アニメーション映画祭、トロント国際映画祭、ベルリン国際映画祭、香港国際映画祭において、ジャパブースを設置し、日本映画の紹介を実施。

また国際共同製作映画や海外における日本映画上映の普及を目的に、同ブースに打ち合わせスペースを設け、国内外の監督やプロデューサー等の交流の場を提供。

(3) 日本映画紹介冊子(Japanese Film)の作成



【実績】

国内外での受賞や興行収入の高かったものを中心に当該年度を代表する劇・記録・アニメーション映画等を掲載し、世界各地の主要な国際映画祭・見本市にて、映画業界関係者を中心に配布。